

投稿

奉天盲人福祉協会附設啓明学園について

宮城教育大学 小松教之

はじめに

筆者は先に、第二次世界大戦中に現在の中国東北部で盲聾教育事業に取組んだ「田代清雄（本名：清夫）」について紹介した。^{5), 6), 7)}

田代の足跡を追う作業の過程で、田代とはゞ同時期に盲男児のみを対象としたキリスト教伝道・教育施設「啓明学園」を中国遼寧省瀋陽（旧奉天）市に創設して活躍したという「大村善永」なる人物の存在を知った（写真1）。国内では盲伝道家として著名な氏のこの業績を知る人は、多くのキリスト教関係者は別として日本盲教育界では極めて少ないようと思われる。¹¹⁾

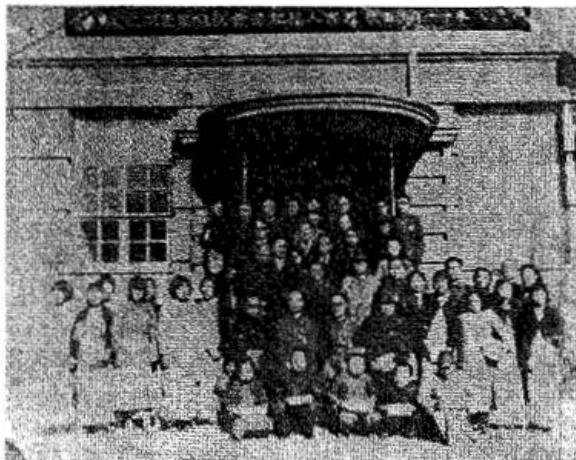


写真1：開校式記念写真

前列5名新入園児、その後中央 奉天市長鄭禹、
右 大村善永（自叙伝・三死一生、昭36.ヨリ）

以下、氏の長女である「北川はるみ」さんから寄せられた手紙^{8), 4)}と氏の自叙伝⁹⁾をもとにその業績を紹介しよう。

I 大村善永について

自叙伝に従って大村の略歴をまとめると表1のようになる。大村は山梨県出身。祖父の代から熱心なキリスト教徒一家に生を受けるが、旧制第六高等学校当時に病を得て失明、その後、苦悩の末に「盲教育」「盲人福祉」に生涯を捧げようと決心する。

その地を旧満洲（現在の中国東北部）に求めたところは、先に筆者が紹介した田代と共にしているが、その事業に取組む情熱は再三に亘る建白書の提出とか、その結果として創立に漕ぎつけた「奉天盲人福祉協会」の発会式での挨拶（表2）からも、強い信仰に裏づけられたものである事が推察される。

しかし、こうした戦中から戦後に亘る氏の活動は、非常に多くの日中両国の

表1 大村善永氏の略歴

1904年1月17日(明治37年)	父房太郎、母るい、の四男として「山梨県東山梨郡八幡町北」にて出生。 ・日下部教会において幼児受洗。
1907年	8才の夏頃、叔父貞平の養嗣子となり、叔父の任地満洲・熊岳城という満鉄線駅近くの官舎に赴く。 ・大連第三小学校卒業。 ・官立旅順中学校卒業。
1921年4月 (大正10年)	岡山第六高等学校理科甲に入学。
1922年	青年性網膜硝子体出血の為退学、大連満鉄病院にて入院加療。
1928年 (昭和3年)	完全失明、岩橋武夫氏をたより上阪。 ・関西学院文学部英文科に入学。
1929年4月	◎「満洲事変」の勃発
1933年3月 (昭和8年)	・関西学院を卒業、直ちに横浜訓盲院教師に就任。
1934年3月24日	「平間きみ」と結婚。
1935年3月	・長女「はるみ」誕生。
1937年7月7日	◎「日華事変」の勃発
1939年	横浜訓盲院を退職。 この間、1.「盲教育並びに盲人福祉に関する建白書」 2.「満洲の盲人に光を」 3.「満洲盲人保護並びに教育に関する建白書」 を満洲国政府あてに送達。 1940年民生部大臣名の「奉天市での責事業に期待する」旨の書翰を得る。

1940年9月14日(昭和15年)	奉天市へ出発。青葉町49番に仮居し、奉天青葉町教会・平野一城牧師の仲介で鄭禹奉天市長、多田晃正副市長に会い「奉天盲人福祉協会」設立の為の協力を要請す。
1941年3月8日	「奉天盲人福祉協会」発足、同協会主事兼啓明学園長となる。 1.市内盲人の実態調査 ・協会の主な事業 2.盲人の教育施設の設置－啓明学園 3.市内外における失明防止運動 協会本部は、奉天市行政処社会科におき事業所は城内の大南門内奉天キリスト教青年館におき、啓明学園をその中に設置した。
1941年11月1日(昭和16年)	男盲児教育施設「啓明学園」開設、入園児5名。キリスト教青年会館小講堂で開園式を行う。 その日は寒く粉雪さえ舞う中を、とくに小河沿の重明女盲院の職員生徒らが来会し、讃美歌をうたい聖書を読み、祈りをもって式をすすめた。
同年12月8日	◎第二次世界大戦勃発
1943年4月6日	・長男「美國」敷島在満国民学校入学 啓明学園は、男子生徒30名、教職員10名となる。ハーモニカバンドを結成、奉天ラジオ放送局から毎月定期演奏を放送する。
同年秋	岩橋武夫先生一行を招き、奉天・新京・ハルビン・錦州・安東で講演会を開催。
1945年5月 (昭和20年)	関東軍嘱託「奉天失明軍人教育所」教官となる。
同年8月	奉天陸軍病院五竜背分院に失明軍人と共に一家で疎開。
8月15日	◎終戦
1946年10月	日本に引揚げ、同年11月より昭和23年3月まで日本キリスト教神学専門学校（東京神学大学の前身）にて聽講の傍、盲人キリスト信仰会での奉仕、東京盲人会館（現ヘレンケラー協会）経営のヘレンケラー学園の講師。
1948年 (昭和23年)	日本キリスト教団補教師、同年6月10日、高田馬場にシロアム伝道所を開設、牧師となる。
1949年 (昭和24年)	盲人信徒修養会を葉山のレーシー館で開催（講師：浅野順一、鈴木正久、大村勇氏）。
1951年 (昭和26年)	日本キリスト教団正教師、同年7月日本盲人キリスト教伝道協議会の創立に参加、役員となる。
1952年	シロアム教会幼稚科開設、園長となる。
1962年3月 (昭和40年)	韓国全土の盲学校所在地を歴訪、巡回伝道を行う。
1989年2月22日	逝去・行年85歳

(自叙伝・三死一生、昭36. ヨリ)

表2 奉天盲人福祉協会発会式での挨拶

1941(昭和16)年3月8日

本日ここに奉天盲人福祉協会の発会を見るに当り、官民各位におかれましては、御多用中にも拘らず御来会下さいまして感謝の至りに存じます。不肖私は先ほど市長閣下より身にあまる御紹介を賜わり恐縮に存じましたが、この席をお借りいたしまして一言申上げ度く存じます。

およそ一国、一都市の価値評価は、その政治、経済、文教、警備等の充実いかんにかかっていると思います。満洲国は建国以来、日なお浅く、各般の整備に忙殺されておるにも拘らず、これらの点におきまして長足の発展をとげ、とくに当奉天市は由緒ある中心都市として目ざましい発展を見ておりることは慶賀に堪えません。これひとえに官民有力者各位並びに市民諸氏の御努力の成果と存じます。

但し、不肖私、昨年秋来満以来感じますに、今日の準戦時体制下とは言え、盲人を含めて身体障害者に対する施策は、未だ不充分、否、失礼ながら全くといってよい不足振りに思います。

私は幼少の頃から、この大陸において御世話になり、高等学校に勉学中失明したものであります。従って当地における盲人の教育、並びに福祉に関しましては深い関心を持っておるのであります。御存じの通り、盲人は五官のうち最も主要な器官を失いましたため、皆様の御想像を越えた不自由をなめておるのであります。

幸い皆様の善意と御協力により、本会の発足を見ました上は、今後この種の事業の発展に関し、いちじるしい進歩を期待してやみません。

新約聖書ヨハネ福音書九章にイエスキリストが生れつきの盲人の目を癒された記事が出ております。

ある時イエスは、エルサレム城外シロアムの池のほとりで一人の盲人を見て、人々に言われました。

「この人が目しいで生れたのは、本人の罪でも親の罪でもない。唯、神のみわざがこの人の上にあらわれるためである」かく申して盲人の目に指でつばきをつけ「シロアムの池にいって洗え」と申されました。その通りにすると見えるようになり、喜び勇んで家に帰ったとあります。

これによって感じることは、イエスの行為は、その深い愛によるものとは言え、天地間に働く神の偉大な恵みをあらわしたものと申せます。どうか本日発足いたしました奉天盲人福祉協会が皆様の善意の象徴として神の業をあらわされますよう切に願ってやみません。どうもありがとうございました。

(自叙伝・三死一生、昭36、ヨリ)

表3 大村氏を支えた人達

(敬称略)

主な登場人物	備考
○小林全二・熱心な盲人信徒、内村鑑三主宰「東京盲人会」発行の「点字聖書」を紹介する。	p. 8
○1924(大正13)年・韓国全羅北道扶安郡に赴き、矢崎清七・そのえ夫婦の支援を得て農業を営む。	p. 34
○「点字毎日」の記事の中から“奇蹟の人”ヘレン・ケラー女史や、早稻田大学在学中失明、刻苦してイギリスのエジンバラ大学に学び活躍している関西学院岩橋武夫教授(大阪ライトハウス館長)の存在を知る。	p. 41
○毎日新聞社点字部：中村京太郎主筆、大野加久二、長岡加藤治より日本の盲界事情や盲人の心がまえを教示される。	p. 42
○後の関西学院寿岳文章教授の静子夫人より英文タイプライターの練習を受く。	p. 43
○島史也・岩橋教授秘書兼燈影女学院教師で後の宮城女子学院教師、二人とない心の友。	p. 45
○1級下の学生で千葉県出身の平間輝男、「きみ夫人」の令兄。	p. 49
○関学の級友・田中正夫。卒業式の日代理として優等賞状・賞品・特別賞を受けてくれる。	p. 50
○横浜訓盲院長ギディン・エフ・ドレーパー博士・同夫人、令嬢ミス・ウィニフレッド、ミス・メリオン、今村主事。	p. 52
○東京盲学校師範部出身の河原教諭、真船教諭。	p. 57
○フレンド協会委員長ポールス博士夫妻。	
○中央盲人福祉協会大久保利武会長、東京盲人会大河原欽吾常務理事、	p. 58
関西学院長ベーツ博士、中学の恩師奥島太一郎、平野一城奉天教会牧師、	
キリスト友会ギルバート・ホールズ牧師。	
○鄭禹奉天市長、多田晃正奉天副市長、竜行政処長。	p. 63
○家事手伝い・金金玉(12才)	p. 70
○満洲医大眼科医長佐々木統一郎博士(きみ夫人の母方の祖父・内ヶ崎安之助と博士の祖母は、腹ちがいの兄弟。内ヶ崎家は旧仙台藩主伊達家の家老)。	p. 70-71
○啓明学園の職員と教え子。	
・朝鮮出身(青山学院神学部卒)の青年教師・ハーモニカの名手。	p. 77
・台湾系の伺教師(名通訳)。	p. 78
・炊事夫の胡さん、張さん。	p. 74
・路先生。	p. 89
・全盲の李先生。	"
・王徳順夫妻(教え子・現瀋陽市盲校教師)。	p. 140
○奉天陸軍病院庶務課長陸軍軍医中佐山田正良。	p. 80
○奉天陸軍病院分院の分院長新村大尉、橋本軍医中尉、森マッサージ師。	p. 85
○失明軍人桂田淳一(京都の祇園生れ、東京盲学校師範科卒、現新宿区視力障害者協会々長)	p. 88, 98
○片足切断の前田克己中尉、短歌同好会を結成。	p. 92
○好本督初代盲伝委員長(オックスフォードの聖者と云われた方で日本盲人の恩人)、	p. 101
○後藤巖之助(東北学院神学部出身)盲人会館主事。シロアム伝道所の創立協力者。	p. 107
○大工の横山三義棟領(桂田兄の軍隊時代の班長)、実業家林敏雄、牧師館の寄附を申出る。	p. 110
○稻垣しげ子姉、辻るつ子姉。	p. 112
○盲人信徒修養会(昭和24年)の講師浅野順一、鈴木正夫、大村勇。	p. 113
○東京教区長小金井為一郎。	p. 114
○柏井光藏牧師、今駒泰成牧師。	p. 115
○影山範文、藤井健児、三谷復二郎、石松景蔵、蓮池五郎、熊谷鉄太郎、喜久田倫章、伊藤福七、秋元梅吉、肥後基一、影山儀之助、杉浦四郎。	p. 117
○韓国の李永植牧師、その子息李泰栄大邱大学校長。	p. 117-118
○和波孝禧(バイオリニスト)、田中禎一(ピアニスト)、高田富美野(声楽家)、	p. 121
石井好子(シャンソンの女王)、上智大学グリークラブ、ICU教会聖歌隊。	
○大塚利吉石工、藤村棟領、高橋秀子設計監督	p. 122
○福井二郎池袋西教会牧師、平野保東京教区代表牧師、	
日本盲人キリスト教伝道協議会代表石松量蔵牧師。	p. 123

(自叙伝・三死一生、昭36. ヨリ)

人達の励しと協力・献身的援助があってこそものであった事は、自叙伝に登場する多くの関係した方々の名がそれを証明している。主な方々の名をまとめたのが表3である。

Ⅱ シロアム教会の創立と「盲伝」の結成

表1からも明かなように、引揚げ後に大村は日本キリスト教神学専門学校に聴講生として入学、日本キリスト教団補教師の資格を得、昭和23年6月10日に「シロアム伝道所」を開設し牧師となっている。

この伝道所が後に「シロアム教会」と発展するまでの経過は表4に示してあるが、「シロアム」という教会名の由来は、彼が奉天盲人福祉協会の発会式で述べた挨拶（表2）の中に明白に示されている。

また彼は、当時の日本では未組織であった日本盲人キリスト教伝道協議会（「伝道」と略）の創立にも重要な役割を担い、初期のこの協会の運営・活動に寄与している。

Ⅲ 啓明学園のその後

夫人による自叙伝の追記（表5）によれば、啓明学園は重明盲女塾と合併し、新築されて「瀋陽市盲校」と改称され現存しているという。

夫人の追記にある重明盲女塾とは、啓明学園の開園式に参加して讃美歌をうたい、聖書を読み、祈りをもって式をすすめてくれたという生徒達が在籍した小河沿の重明女盲院と同一校であると思われる（表1参照）。

また、これとは別に嶋田¹⁰⁾によれば、瞽目重明女学堂という盲学校が小河沿に存在していた（表6）。

1937年4月に初来日したヘレン・ケラー女史は、同年7月18日から21日まで奉天市に滞在し、2回講演会を開催している。その折に訪問した学校として岩橋²⁾が記録に残している重明盲学校もまた上記の諸学校と同一校と思われる。

夫人によれば、啓明学園創立時には既に奉天には居られなかったが、田代氏の名は確かに記憶にあり、多分数回は在満福祉事業関係者の会合の席でおめにかかっている筈、という。

表4 「シロアム教会」誕生と「盲伝」結成までの経過

- 引揚げ後間もなく、大正初期に御大典用材の下附をうけ建設された「東京光の家」を母体として生まれた全国的盲信徒の団体である“盲人キリスト信仰会”に参加。
- 高田馬場の東京盲人会館（現ヘレンケラー会館）の一室借りうけヘレンケラー学院の盲生徒達と聖書を学び始める（「シロアム教会」誕生の第一歩）。
- 高田馬場駅近くに6坪程の小住宅「真珠の家」を入手（「シロアム教会」の土台）。
- 1948（昭和23）年6月10日、盲人会館二階講堂でシロアム伝道所の創立礼拝を挙行。
司式大村善永、説教者大村勇、山谷省吾教区長の祝辞を佐藤春吉教区主事代読。
- 1950年のクリスマス礼拝を「真珠の家」を改造し建設した14坪の新会堂で行う。
- 1951年5月、故白戸八郎牧師を迎へペンテコステ特別礼拝を守り、翌朝から毎朝7時に新会堂で早天祈祷会を開く。
- 1951年7月、箱根強羅で日本盲人キリスト教伝道協議会（「盲伝」と略称）創立総会開かる。
〔総会開催までの経緯〕
1949年ヘレン・ケラー女史の再来朝に同行したニューヨークのジョン・ミルトン協会総主事ストファー博士が帰国後、日本キリスト教協議会（NCC）を通して全国レベルの盲人伝道組織の結成を勧告。
これに応え、柏井光蔵教団伝道部長、友井禎総主事、海老名亮NCC総主事列席の下に、盲人のための新団体結成の議が成立した。
- 「盲伝」初代委員長・好本督、副委員長・柏井光蔵、事務局長・今駒泰成。
- 「盲伝」二代目委員長・柏井光蔵。
- 1951年11月、「シロアム教会」牧師館建設着工。
- 1960年9月2日、会堂、幼稚園舎の建設計画を決定、5カ年計画の募金運動始まる。
- 1965年10月3日、午前の聖日礼拝の後、午後3時より献堂式を挙行。
記念説教：福井二郎池袋西教会牧師。
祝　　辞：大村勇日本キリスト教団代表牧師。
平野保東京教区代表牧師。
石松量蔵「盲伝」代表牧師。
- 1968年、都市開発法制定。
- 1978年、再開発に着工、1981年5月完成。

(自叙伝・三死一生、昭36.ヨリ)

ともあれ、啓明学園が創立当初から親交のあった古い歴史をもつ重明盲学校と合併され現存しているとしても決して不思議はない。中国の最新資料¹²⁾に、校名：瀋陽市盲童学校、住所：瀋河区万泉街重明里2号と記載されているのが多分この学校であろうと思われる。

Ⅳ 若干の考察－「まとめ」にかえて

李⁸⁾によれば、1856年の第二次阿片戦争以来帝国主義によるさまざまな形の中国侵略が開始されるが、宗教活動、とりわけ“救済という名の慈善事業”もその1つであり、多種多様な慈善事業の中に皮肉にも「盲童学校」や「聾啞学校」があったという。

中国における最初の盲童学校は、1879年英国人宣教師 Hill Murray によって北平（現在の北京市）海甸南八里庄に創設された「盲人・盲童班」・後の「啓明瞽目院」・現在の「北京盲童学校」であり、また他の資料では、¹⁾米国人宣教師 Charles Rogers Mills により1887年山東省蓬萊県に設立された「啓瘡学校」が中国における聾啞学校の第一号である。

この「啓瘡学校」については、我が国ではその所在地、煙台を冠したと思われる「チーフー聾学校（Chefoo School for Chinese Deaf Children）」の名で中国最初の聾学校として詳しく紹介されている¹⁾。

先行研究や本稿で紹介した重明盲学校や田代・大村らの手になる諸教育・福祉施設名は、残念ながら中国側の文献には登場して来ないが、歴史的評価は李⁸⁾によるものと同等のものであると推測される。

夫々の国が犯した誤ちを卒直に認めた上で、筆者は、此等の宗教活動や教育・福祉活動に献身的な努力を払った個人・一人ひとりの心からの善意を信じ、本稿をまとめ上げた。

「「盲伝」婦人部の方々の今年次の募金の中から、点字タイプライター三台（25万円相当）を、父が関係した盲学校に送りました」というお手紙を北川さんから最近頂戴した。⁴⁾

日中友好の絆は、今後も切れる事なく続くであろう。

表5 きみ夫人の手記

追記

1945年8月13日深夜、軍からの迎えのトラックに乗せられ、連れていかれて以来40有余年、忘れる事のなかった啓明学園の盲生徒達との連絡がつき、通信が出来るようになったのは、長女はるみの中国語の友人高瀬晋一氏のお陰でした。高瀬氏の奉天工大での学友橋静宇氏が、移転した学校を探し当ててくださったのです。

夫が創立した啓明学園は、重明盲女塾と合併し、瀋陽市盲校という名称に変更され、東北地区唯一の市立盲学校となっていました。教え子の一人王徳順夫妻が、盲校の教師をしており、彼が窓口となって私達の文通が始まりました。こちらの喜び以上に彼らは喜んでくれました。

1982年春、大村校長招待の手紙があり、私達夫婦にはるみが附添って行くことにして渡航手続きを進めていたのですが、脳腫瘍手術後4年目の夫は、その直前になって大発作を起し、残念ながらあきらめざるを得ませんでした。

1984年6月、私共に代って、はるみ夫妻が盲校を訪問してくれることになりました。夫が情熱を傾けて教育した最初の生徒達が、夫婦を待ち受けていてくれました。はるみは生徒達と年が近く、幼い日学園内で一緒に遊んだりしていたので、彼らもなつかしがって喜んでくれたようです。

写して来てくれた教え子達の写真を見ているうちに、だんだん昔の幼顔がよみがえり、なつかしさがこみ上げてきました。

盲校が、日本から訪ねて來た昔の創立者の娘を大変丁重にもてなしてくださいましたことを写真で見、北川夫婦からも事細かに報告を受けました。

今夫の枕辺には、北川夫婦が持ち帰った、盲校から贈られた鳥の形をした花びんと、教え子達からの羽毛で描かれた大きな絵額が飾ってあります。

1988年3月

妻 大 村 き み

(自叙伝・三死一生、昭36. ヨリ)

表6 聰目重明女学堂について

○奉天英國長老会所属の教会に在りては、私立遼寧医科専門学校、盛京施医院、女子師範中学校、聰目重明女学堂、私立文會高級中学校等を経営す。

○盛京施医院は医科専門学校の附属病院にして、千九百六年長老会宣教師の妻（医師）が中国人施療の為、小河沿に設立したるものにして奉天地方に於ける洋医の嚆矢である。

○聰目重明女学堂は、千九百年英國女宣教師が中国人盲目婦女を教育して職業を授くべく、盛京医院の西隣に設立し後千九百十六年二階建百三十坪の校舎を建築した。
 教員は英國人女一人、^{ダンマーク}丁抹人女一人、中国人女四人、生徒は女子のみ五十八人を収容す。
 千九百三十年には十人の卒業生を出せり。
 教育期間は一定せず凡そ六、七年を要す。学科は普通学科を授くる外、将来独立生計を営み得べき裁縫編物等を授く。経費四千元は、寄附、作業収益金、教会支出其の他に依る。

(嶋田道弥：満洲教育史、青史社ヨリ)

文献・資料

- 1) 藤本敏文編(1985)：聰啞年鑑(第一回 昭和10年版)、聰啞月報社。
- 2) 岩橋英行(1962)：日本ライトハウス四十年史、社会福祉法人日本ライトハウス。
- 3) 北川はるみ(1990. 2. 17)：「私信」。
- 4) 北川はるみ(1990. 3. 6)：「私信」。
- 5) 小松教之(1988)：私立沖縄聰啞学校設立者・田代清雄の知られざる足跡
発達障害研究 10(3) 72~76.
- 6) 小松教之(1989)：満洲国赤十字社新京聰啞学院 発達障害研究 11(1)
65~69.
- 7) 小松教之(1990)：旧満洲国赤十字社新京聰啞学院・初代学院長「田代清雄」について 宮城教育大学紀要 第24巻 127~140.
- 8) 李 牧子編著(1981)：盲童教育概論、北京盲文出版(北京)。

- 9) 大村善永(1988)：自叙伝・三死一生、ぎょうせい。
- 10) 鳩田道弥(1935)：満洲教育史、文教社(青史社復刻 1986)。
- 11) 谷合 侑(1986)：自叙伝による近代の盲人像 第一回 視覚障害 №84
25～33。
- 12) 全国残疾人抽出調査弁公室編(1988)：中国残疾人手冊、地震出版社(北京)。

《インフォメーション3 図書》

戦前・戦中期における障害者福祉対策(富士記念財団助成研究) 平成2年3月刊 B5判 184ページ (財)社会福祉研究所

平成元年度海外研修報告書集(第20回) B5判 249ページ (財)中央競馬社会福祉財団

障害者教育学(藤井聰尚著) 1990年7月刊 A5判 215ページ
¥2060 福村出版

ふれあいガイドマップー障害者用ガイドマップー B5判 144ページ
大阪ふれあいキャンペーン実行委員会・大阪市

障害児と教育(茂木俊彦著) 1990年7月刊 ¥520 岩波新書

障害児教育総説(山下 功著) 1990年6月刊 A5判 211ページ
¥2472 九州大学出版会

Understanding Blindness (Mark Hollins著) 1989年刊 A5判
Lawrence Erlbaum Association Publishers

みちのりはるかー視力障害の娘とともに生きてー(谷田部和子著)
1990年9月刊 A5判 245ページ ¥980 小学館

障害児指導の方法(坂本龍生他編著) 1990年9月 B5判 362ページ
学苑社

クレパスの色が見分けられますか(城 雄二・色覚問題研究グループ著)
1990年11月刊 A5判 182ページ ¥2000 創知社

コミュニケーション(盲ろう者の情報誌) 1990年・冬・創刊号 1990年10月刊
A4判 58ページ 社会福祉法人全国盲ろう者協会設立準備会(〒107 東京都港区赤坂3-13-3 ふえいビル3F TEL 03-585-6114)